

砂防

ふくしま

第14号

福島県砂防協会機関誌

猪苗代町立山瀧小学校3年

安部 晃史さん



国土交通事務次官賞（絵画部門）福島県砂防協会会長賞

平成17年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール

CONTENTS

福島県砂防協会長あいさつ	2
平成17年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品	2
平成17年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（絵画部門）	3
平成17年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（ポスター部門）	4
平成17年度「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品（作文部門）	5
「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み	7
平成17年度優良土木建築工事表彰（砂防部門）	7
県内で初めて土砂災害警戒区域等が指定されました。	8

みんなで防ごう土砂災害
土砂災害防止月間
6/1→30
 かけ崩れ防災週間 6/1▶7

福島県砂防協会長あいさつ



福島県砂防協会長
只見町長 小沼 昇

会員の皆様には、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。また、日ごろから本協会の運営にあたり御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

本年度は、昨年度に比べて台風等による大きな土砂災害等の被害がなかった一方で、会津地方においては近年にない大雪に見舞われ、雪崩に対する警戒が続いております。

このため1月上旬には、県と市町村の職員が協力して、県内の雪崩危険箇所について緊急の点検を実施し、雪崩の危険な箇所がないか確認するとともに、地域住民の注意喚起を図ってきたところであります。

さて、本協会では、重要な事業活動として、土砂災害防止に関する啓発活動を実施しておりますが、この度、国土交通省と県が毎年6月に実施している「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクールの審査の結果、本県からは、安部晃史さん(猪苗代町立山瀧小学校3年)、半澤友里恵さん(須賀川市立長沼中学校3年)の国土交通事務次官賞をはじめ、多くの作品が受賞されることになりました。

作品の内容も、土砂災害とその防止について広く啓発する大変優秀なもので受賞された皆様に対し心からお祝いを申し上げます。

本協会といたしましても、引き続き、悲惨な土砂災害から県民の生命と財産を守るため、子供から大人まで地域が一体となった啓発活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので、会員の皆様と関係機関の特段の御協力をお願い申し上げまして、あいさつといたします。

平成17年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

国土交通省と福島県では、土石流・地すべり・がけ崩れ等の土砂災害から、かけがえのない生命と財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関して地域の皆様の御理解と御協力をいただくために様々な行事を行っております。

この行事の一環として、明日を担う小・中学生を対象に「土砂災害防止」に関する絵画・ポスター・作文コンクールが行われました。

本県においては、多くの応募の中から16作品が福島県砂防協会会長賞に選ばれ、そのうち8作品が中央審査会に推薦されました。

審査の結果、安部晃史さん(猪苗代町立山瀧小学校3年)(絵画部門)、半澤友里恵さん(須賀川市立長沼中学校3年)(作文部門)の国土交通事務次官賞のほか、4名の方が砂防部長賞に選ばれました。ここに受賞された方の作品を御紹介します。

平成17年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール作品応募状況等

区 分	福島県内応募数				全国応募数		
	うち 福島県 砂防協会会長賞	うち 国土交通 事務次官賞	うち 砂防 部長賞		うち優秀賞受賞者数(※1)		
絵画	小学生	7	2	1	861	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=11
	中学生	8	2	1	367	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=10
ポスター	小学生	20	3		1,378	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=10
	中学生	45	5	2	1,520	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=11
作文	小学生	10	2	1	288	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=10
	中学生	8	2	1	449	大臣賞=1、次官賞=3、	部長賞=9
計	小学生	37	7	1	2,527	大臣賞=3、次官賞=9、	部長賞=31
	中学生	61	9	3	2,336	大臣賞=3、次官賞=9、	部長賞=30
総計		98	16	4	4,863	大臣賞=6、次官賞=18、	部長賞=61

(※1) 大臣賞は国土交通大臣賞、次官賞は国土交通事務次官賞、部長賞は砂防部長賞

平成17年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

絵画 部門



国土交通事務次官賞

福島県砂防協会会長賞
猪苗代町立山潟小学校(3年)
安部 晃史さん



砂防部長賞

福島県砂防協会会長賞
会津若松市立湊中学校(1年)
星 建助さん



福島県砂防協会会長賞
猪苗代町立山潟小学校(4年)
六角 元成さん



福島県砂防協会会長賞
会津若松市立湊中学校(1年)
小檜山 啓さん

平成17年度「土砂災害防止」に関する
絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

ポスター
部門



賞
砂防部長賞
福島県砂防協会会長賞
二本松市立岩代中学校(1年)
鹿又 俊彦さん



賞
砂防部長賞
福島県砂防協会会長賞
石川町立石川中学校(1年)
箭内 陽香さん



福島県砂防協会会長賞
新地町立福田小学校(6年)
猪狩 美香さん



福島県砂防協会会長賞
新地町立福田小学校(6年)
熊谷 綾香さん



福島県砂防協会会長賞
郡山市立上伊豆島小学校(5年)
眞柄 圭佑さん



福島県砂防協会会長賞
二本松市立岩代中学校(3年)
大柳 奈津美さん



福島県砂防協会会長賞
石川町立石川中学校(3年)
滝口 友紀恵さん



福島県砂防協会会長賞
いわき市立中央台南中学校(2年)
鈴木 千賀さん

平成17年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

作文 部門



国土交通事務次官賞
福島県砂防協会会長賞

「土砂災害への備え」

最近、地震や台風などの自然災害が多くなったように思います。以前はそんなことを考える機会はなかったのですが、新潟県中越地震を初め最近起こった宮城県沖地震など考えさせられることがいくつかありました。また、海外でもスマトラ沖地震などでたくさんの津波や土砂崩れがありました。しかし、ニュースなどを見ていると自然災害とだけ片づけられなくなってきているように思います。難しいことはよくわからなくても自然に起こることに対する対策はとても重要だと思います。

私の家の近くにも山があります。この山でたくさんの野菜を作っています。私も時々手伝いで山に行くとたくさんの木々があり、心が落ちつきません。この山が洪水により土砂崩れを起こすなんて普段考えもしません。けれど、だからといって何も起こらないという保障はどこにもないです。現実には、集中豪雨によって大量の土砂が崩れ落ち、家族全員が亡くなってしまおうという悲惨な出来事が全国各地で起きています。私も、もう少しこの問題にちゃんと向き合うべきだと考えました。

台風などにより、たくさんの雨が降ると、樹木はその水を根に吸い込みますが、あまりの豪雨では、地盤がゆるみ崩れてしまいます。これを防ぐためにたくさんの対策がなされています。急な斜面のがけ崩れを起こさないためにさまざまな工事が行われています。例えば、土石流の流下水域に土石流を直接受けとめる砂防えん堤というものを設置したり、低いえん堤や護岸を組み合わせた溪流保全工が作られたりと流れを穏やかにさせているそうです。他に、危険な箇所をマップにして配布し、土砂災害情報システムも整備されています。私の住む地域にも雨量局や水位局があり、たくさんの対策が行われていることがわかりました。このように私たちの生活は、多くの人の考えをもとにして生まれた対策に守られていることに気付かされました。

ニュースで土砂崩れに遭った人を助けるレスキュー隊を見たことがあります。実際にその場にいたわけでもないのにテレビの前で固唾を飲

んで見守っている自分がいました。その時、ヘリコプターなども出動し、たくさんの人の手により助けられるところを見ました。たった一人のためにたくさんの人が力を合わせて命を救う姿に、心をうたれました。しかし、自分の身に起きたことはまずは自分自身で守らなければなりません。いつも私たちがいやされている山や川が一変して私たちに襲いかかってくるのです。私たちが災害から身を守るためには、一刻もはやい対策と処置が大切です。例えば集中豪雨で土砂崩れが起こり、もう少しで自分の家がつぶされてしまうという事態が予想される時私たちがまずやらなければならないことはなんなのでしょう。まずは、雨の量が一時間に20ミリ以上、降り始めから100ミリ以上になったら十分注意しなければなりません。そしてその場から逃げて安全な所へ避難します。我が家ではまだ小さい子供や祖父、祖母がいて、一口にすぐに安全な所へ避難といってもなかなかそうもいかないと思います。だからこそ、家族が助け合い協力し合うことが大切になってくると思います。その時、必要なものをまとめておくことや、避難所となる場所までの道順や危険箇所を事前に確認しておくことなど、前々からの備えがいざというときに必要だと思います。

私の住んでいる福島県は、地盤が固く地震が起こりにくいとされてきましたが、最近宮城県沖地震が起こり、私の住む地域も大きく揺れました。また、今回調べてみて福島県も土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所がたくさんあることを知りました。私の住んでいる地域も20箇所以上が危険箇所に指定されています。

「天災は忘れたころにやってくる」

いつ何時何が起きても大丈夫のように日頃から備え、もし、何かあっても家族で地域で支え合い協力し合えば、きっと乗り越えられると思います。大切な命を失わないように、正しい知識をもちどんな時も慌てず行動していきたいと思います。



砂防部長賞

福島県砂防協会会長賞

土しゃさい害はもういやだ

今年の六月、地しんで大きなひ害を受けた新がたで、今度は大雨でがけがくずれて人がなくなったというニュースをテレビで見ました。その時頃は、「地しんで大変だったのに、今度は雨か・・・」と悲しくなりました。

ぼくの家近くに川もがけもないけれど、いつ同じようなさい害にあうか分からないと思いました。だからぼくは、どんな時にどんな土しゃさい害が起こるのか調べてみました。

まず土石流といって、大雨や梅雨でずっと雨がふり続いた後に、水と一緒に土しゃや石が一気にものすごい速さで流れてくるものがあることを知りました。それから、地すべりやがけくずれなど、やっぱり雨などで地面やしゃ面がとつ然くずれ落ちてしまうものもありました。

どれもたくさんの人が生きうめになったり、水で遠くに流されたりしてなくなってしまうので、本当におそろしい悲しいと思います。

それから調べていたら、ハザードマップという物があることを知りました。もしも大雨がふった時には、これを見ればどこにひなんすればよいか分かるようになっていきます。だからこれはみんな知っておいた方がよい大

切なことだと思いました。

土しゃさい害をふせぐためには、たくさん工夫しなければならないと思います。ぼくはその中で一番大切なのは、山に木を植えることだと思います。雨がふると、川の色が土の色になっているのは、山から土がたくさん流れてきているからです。だけど木があれば、木の根っこが土をせきとめてくれます。それに木を植えれば、二さん化炭素をたくさんきゅうしゅうしてくれて温だん化ぼう止になるし、よいことだらけだと思います。

しかし、木を植えるどころか、木が切られたり山がなくなったりしているところがたくさんあります。学校にある写真を見てみたら、ぼくの家が建っていたところも田んぼで、まわりには、山や木がたくさんあったのです。ぼくの家にも木を植えることはできませんが、牛にゆうパックとかをさい利用すれば、何本かでも木を切らなくてすむと思います。

土がくずれて人がなくなったり、悲しい思いをするのはもういやです。だから今からでもみんなで協力して、さい害が起こらないように工夫すれば、みんなが安全にくらせるようになると思います。

二本松市立油井小学校(2年)

佐々木 徹志さん

平成17年度「土砂災害防止」に関する 絵画・ポスター・作文コンクール受賞作品

作文 部門

福島県砂防協会長賞 土砂災害で学んだ事

田島町立田島小学校(6年)
星 有紗さん

最近、いろいろな場所で、土砂くずれや災害などがたくさん起きています。私の住んでいる町でも、たくさんの地震が起きたり、大雨が降ったりと、とても大変です。また、昨年には、スマトラ沖地震や新潟中越地震が起き、土砂災害もありました。その中でも新潟では、土砂くずれが起き、車が土砂にうまってしまったという事故がありました。その中に大人一人、子供二人が乗っていて、子供一人が助かったというニュースが脳裏から離れません。私はその時、土砂災害はいつ起きるかわからないので、日頃から、特に雨が降った時は気をつけたいと思います。それに、この土砂災害では消防隊やレスキュー隊や警察官、家族などたくさんの人々が三人全てが助かるように、夜も寝ないで救助作業を行いました。

しかし、あとの二人が助からなかったことは、私もとても残念でした。でも、助かった子供には、お母さんとお姉さんの二人分の命を生きぬいてほしいと思いました。そして、もし私の住んでいる場所で土砂災害が起きたら、その場所から離れた安全な場所に逃げなければならないと思いました。

私が幼稚園の時、台風がきて雨がたくさん降ったことがあります。その次の日の朝幼稚園に行く時、幼稚園のすぐ裏にある山の愛宕山というところから、水と一緒に大きな石がたくさん流れてきていて、なかなか歩けないということがありました。私と母は、「愛宕山くずれないよね。」と、自分の通っている幼稚園が流されないか心配したことがありました。

今考えると、あのまま台風が続き、雨がたくさん降り続いたら、本当に土砂災害になり被害が大きくなっていくかもしれません。

田島町では他にも、災害の起きやすい場所がいくつかあります。実際に災害が起きた場所は田島町高野地区です。そこは台風で大雨が降り、人の歩く山道から大量の水が流れ、山をどんどんけずり、土砂が車の通る道路まで流れでて、通行止めになったことがありました。また、山以外の場所で土砂災害が起きやすいと言われている場所の一つは、田島町東町地区の奥です。私は、このことを

知り、土砂災害は山以外でも起きるということにおどろきました。

このような土砂災害が起きるまでは、まず大雨が降り続きます。その雨はバケツをひっくり返したような勢いで降ります。その雨が山はだから砂利と土と一緒に流れ始めます。次に大きい石が流れ、どろ水と一緒に多くの石が流れでます。すると、土砂がくずれでるサインということです。このどろ水が流れて来るとすぐ土砂災害が起きるので、早く逃げなければなりません。もし私たちの住んでいる場所です。さらに被害を少なくするには、ひなんするだけでなく、土砂くずれの起きそうな土地に家を建てないようにすることも大切だと思います。田島町西町地区の谷地というところでは、昔から地ばんがゆるいと言われていて、そういう地ばんのゆるい場所に住んでいる人は、地震や雨などの時、特に気をつけてほしいと思いました。

私が住んでいる田島町では、土砂災害を防ぐために土砂が流れてこないよう、山にさくを取りつける工事を行っています。また、地ばんのゆるい所は、地ばんの補強という工事も行っています。

もし、田島町で土砂災害が起きる危険がある時は、消防団の団長に無線で連絡が入り消防団員が地区の人達に注意やひなんの呼びかけをします。それと同時に役場の人達がパトロールをして危険な所を発見したら、早めに通行止めにもします。このように町での対応の仕方をみならって、各家庭でも災害が起きた場合の逃げる場所の確認や連絡のとり方を決めておくべきだと思います。もし、家庭と離れた場所でも戻ってさがしに行かずに安全な場所で待っていることも頭に入れておいてほしいと思います。

土砂災害は、いつ、どんな場所でもどのように起こるかわからないこわい自然災害です。少しでも被害が少なくなるように、町民全員が他の地域、他の県のこととして見るのではなく身近な災害として考えることが大切だと思います。

福島県砂防協会長賞 土砂災害の対策について

須賀川養護学校郡山分校中学(3年)
橋本 祥恵さん

今年9月の台風14号は、全国各地に大きな被害をもたらしました。福島県では、伊達郡川俣町や二本松市で崖崩れや床下浸水による被害がありましたが、他県に比べ、土砂災害が少なく幸でした。この台風14号は、米国で大きな被害をもたらした後に日本にやってきたということもあり、特に記憶に残ります。台風14号は大雨をもたらし、洪水や地盤の緩みによって土砂災害を起こしました。台風による床上・床下浸水数は、全国で22,908棟(9月13日内閣府発表)もあり、特に九州、中国、四国地方が大きな被害を受け、中でも宮崎県が最も被害が多く、崖崩れ、土砂崩れ、土石流等で、高齢者の方がたくさん亡くなりました。また、山口県の岩国市の錦帯橋の橋脚が流されたり、山陽自動車道の一部が崩落したりしました。土砂災害は全国で352件も発生し、死者、行方不明者、負傷者数は、全国で25人、家屋損壊数は191棟にのぼりました(10月7日国土交通省発表)。そこで、なぜこのような土砂災害が起こるのかを考えてみることにしました。

土砂災害は、大雨や地震などが引き金となり、山や崖が崩れたり(崖崩れ)、土と混じり合った水や石が流れ出たり(土石流)、粘土のような滑りやすい地層に雨水などがしみ込みその影響で地面が動き出す(地すべり)、さらに火山の噴火によるもの等があります。

日本は地理的、地形的、気象的条件から見て、自然災害が起こりやすい国と言えます。具体的には、狭い国土に山地が多く、急な河川も多い上に、日本が環太平洋造山帯に属しており、地震が頻繁に多く発生します。そして、毎年のように梅雨前線により大雨や熱帯域からの台風による暴風雨、シベリア寒気団による豪雪により、災害が起こっています。また、利便性を求めるあまり、山を無計画に削ってしまったり、利益優先で木を必要以上に伐採したりして土砂災害が起こることがあります。その場合、いくら植樹をしても根づくまで、あるいは樹が大きくなるまで時間がかかり、地盤を回復するには、大変な労力と時間を費やすこととなります。土砂災害は、これら(地形)の環境的要因と、人的要因が絡み合って起こるというわけです。

土砂災害が懸念される場合、どうすればよいのか、対策として何をなすべきな

のかを調べてみたところ、コンピューターでの情報公開、そして、国で行われている土砂災害の防止対策がたくさんあることが分かりました。土石流対策では、「渓流保全工」や、土石流をせき止めて土石流から下流にある人家や財産を守る「砂防えん堤」、崖崩れ対策では、「法面工」や、崩落してきた土砂を受け止める「擁壁工」が挙げられます。また、土砂災害では、山間部に住んでいる住民の方々が、一番多く被害を被ることになりがちです。地域をよく調査の上、土砂災害が、そんな危険箇所をあらかじめ想定し、土砂災害マップを作成し、常日頃からパトロールを行うなど、行政と地域住民との協力による警戒と注意の喚起が有効な対策の1つになるようです。どのような災害でも言えることなのですが、非常用の携帯バックを用意し、災害の際に必要な物を入れて、いつ災害が起きても持ち出せるように日頃から準備しておくことが大切です。また、土砂災害を見つけたら土砂にのみ込まないようにその場から離れること、土砂災害が起きたことをいち早く近所の人に知らせること、電話等で土砂災害について通報することも大事だと考えます。土砂災害には、前兆があります。それは、崖から小石がばらばらと落ちてくる、割れ目が見える、山鳴りがするなどです。このようなことが起きたら注意が必要では、安否の確認に役立ちます。また、日頃から市町村役場への「土砂災害110番」も知っておくことが大切です。

土砂災害発生件数は、平成16年の10月が多く、一年間で2,537件もありました。今後、土砂災害を減らしていくために、地域住民の協力やこつこつと地道に防止対策に努めることが重要です。

台風や地震のような自然災害を減らすことはできませんが、土砂災害は減らすことができます。土砂災害は、尊い人命を奪います。実に恐ろしいことです。土砂災害が起きた時どうすればよいのか、土砂災害は何故起こるのかを一人一人が関心を持ち、皆が自然環境の保護を自覚し、自分たちの安全確保に協力し、さらに、非常時の備えをする等の対策を講じれば、土砂災害を減少させることができ、被害も最小限に食い止めることができると考えます。

「ふるさと安全たんけんスクール」の取り組み。

県内の小学生で、土砂災害の恐ろしさやその防止対策について学ぶため、「ふるさと安全たんけんスクール」が行われました。将来を担う小学生が、土砂災害からどのように身を守るのかなどを真剣に考えました。



棚倉町立高野小学校

開催日	平成17年11月2日(水)
関係機関	福島県砂防ボランティア協会 福島県県南建設事務所河川砂防グループ
内容	ア 自然災害(土砂災害)ってなあに? イ 土砂災害を防ぐ仕事 ウ 地域の危険箇所と砂防事業の例 エ 土砂災害から身を守るために オ 現地見学



いわき市立久ノ浜小学校

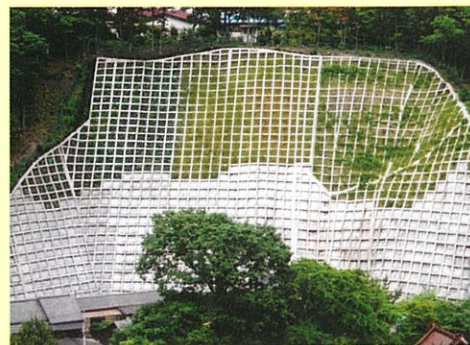
開催日	平成17年11月25日(金)
関係機関	福島県いわき建設事務所河川砂防グループ
内容	ア 自然災害について イ 土砂災害を防ぐ方法について ウ 土砂災害の予知について エ 土砂災害から身を守るためには オ 現地見学

平成17年度優良土木建築工事表彰 (砂防部門)

優良土木工事表彰は、建設技術の向上と発展に寄与することを目的として毎年度実施されておりますが、平成17年度におきましては、砂防関係事業として下記の事業が表彰されました。

工事名 急傾斜地対策工事(板木沢地区)
工事場所 いわき市好間町北好間地内
施工業者 常磐開発株式会社

寸評 狭隘で急峻な斜面对策の工事で、掘削作業や吹付砕工の型枠・鉄筋設置が非常に困難な状況にある中、光波測距を使用し、現場吹付法砕工の法枠が一定間隔となるよう工夫され、また、防塵防止ネットや防音シートを設置するなどの環境対策にも配慮して施工を行った。



県内で初めて土砂災害警戒区域等が指定されました。

土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成12年法律第57号、以下「土砂災害防止法」）に基づき、平成17年12月27日県内で初めて、いわき市、二本松市、天栄村、西郷村、富岡町の21箇所が土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域に指定されました。

土砂災害特別警戒区域では、特定の開発行為に対する許可制や建築物の構造規制等が行われるとともに、土砂災害警戒区域に指定された市町村では、土砂災害防止法第7条により、市町村地域防災計画において、警戒区域ごとに、土砂災害に関する情報の収集及び伝達、予報又は警報の発令及び伝達、避難、救助その他当該警戒区域における土砂災害を防止するために必要な警戒避難体制に関する事項について定め、特に警戒区域内に災害時要援護者施設がある場合には、当該施設の利用者の円滑な警戒避難が行われるよう、土砂災害に関する情報、予報及び警報の伝達方法を定めるとともに、警戒避難を確保する上で必要な事項を住民に周知させるため、これらの事項を記載した印刷物の配布、その他必要な措置を講じていただくこととなります。

土砂災害警戒区域のみを指定した箇所		
指定箇所	指定区域数	自然現象の種類
いわき市	1	土石流1渓流
天栄村	1	土石流1渓流
西郷村	3	土石流3渓流
計	5	土石流5渓流
土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定した箇所		
指定箇所	指定区域数	自然現象の種類
いわき市	1	土石流1渓流
二本松市	4	急傾斜地の崩壊3箇所、土石流1渓流
天栄村	8	急傾斜地の崩壊4箇所、土石流4渓流
西郷村	1	急傾斜地の崩壊1箇所
富岡町	2	土石流2渓流
計	16	急傾斜地の崩壊8箇所、土石流8渓流

区域指定箇所（平成17年12月27日告示）

土砂災害警戒区域の指定 [都道府県知事]

〈土砂災害のおそれがある区域〉

- 情報伝達、警戒避難体制の整備
- 警戒避難に関する事項の住民への周知

〈警戒避難体制〉

- ・市町村地域防災計画（災害対策基本法）

土砂災害特別警戒区域の指定 [都道府県知事]

〈建築物に損壊が生じ著しい危害が生じるおそれがある区域〉

- 特定の開発行為に対する許可制
対象：住宅宅地分譲、社会福祉施設等のための開発行為
- 建築物の構造規制（都市計画区域外も建築確認の対象）
- 土砂災害時に著しい損壊が生じる建築物に対する移転等の勧告
- 勧告による移転者への融資、資金の確保

〈建築物の構造規制〉

- ・居室を有する建築物の構造基準の設定（建築基準法）

〈移転支援〉

- ・住宅金融公庫融資等

編集後記

「砂防ふくしま（第14号）」をお届けします。

今年の冬は、例年のない豪雪に見舞われ、屋根の雪下ろしや除雪について、ニュースでも大きく取り上げられました。

ようやく日差しも暖かくなり始め、雪の峠も越えたところですが、この時期になると、今度は雪崩の危険が高まってきます。県では、市町村と協力し雪崩危険箇所のパトロールやヘリコプターによる上空からの点検を実施しておりますが、住民の方には、斜面の雪の亀裂やしわ、降雨などに注意を払い、市町村への情報提供や早めの避難に努め、万一の被害に備えてほしいところです。

平成18年度も砂防関係事業の予算は厳しいものになりましたが、今後とも、皆様とともに砂防関係事業の推進に努めて参りますのでよろしくお願い致します。

これからも充実した「砂防ふくしま」を目指しますので、皆様の御意見、御希望をお寄せください。

また、県庁にお越しの際は是非砂防協会事務局までお立ち寄り下さい。

